

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年5月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3992600027
法人名	有限会社 沙羅
事業所名	グループホーム しらゆり
所在地	〒789-1932 高知県幡多郡黒潮町下田ノ口2153
自己評価作成日	平成22年1月20日
評価結果市町村受理日	平成22年5月17日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=3992600027&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「地域に愛され共に発展し、一人ひとりを大切にいつも笑顔で家族のように心よせあって楽しく過ごそう」の理念のもと、グループホームしらゆりとして利用者様には田園に囲まれた静かな環境の中でゆったり過ごしていただき、また、ご家族や地域の方がいつでも気軽に何でも話していただける信頼関係を築いていくよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

管理者と全職員が一緒になって話し合い、理念を再認識すると共に日々のサービスの実践に反映している。身体拘束・虐待防止、園芸、レクレーション、美化、椅子・車椅子や器具の点検と修理等の委員会があり、全職員が何らかの委員になって責任感と働く意欲に繋げている。運営推進委員会議を活かし、事業所を秋祭りの神輿のコースに入れてもらい利用者は祭り気分を楽しむなど、住み慣れた地域で落ち着いて和やかに過ごしている。利用者主体を基本に内外の研修や勉強会に力を入れ全職員の質の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と目的をいつも見える場所に貼り、実践に心がけている。また、理念の見直しを行い理念が飾り物にならないように内容についても話し合っている。	管理者と職員が話し合っって作成し、飾り物にならないように全職員が再認識を行い、サービスに実践し反映に繋げている。広報紙に掲載し、家族への周知を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域の一員として受け入れてもらい、地域の一斉清掃・神祭・避難訓練・敬老会等の交流を行っている、また、回覧にて地域や町内のこと等を把握するようにしている。	地域の行事や一斉清掃に参加している。秋祭りの神輿コースに入れてもらい男性職員が神輿担ぎに参加しているほか、野菜等の頂き物があるなど日常的に交流している。地元出身の職員を介して、地域との協力関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の老人クラブの方々との交流会など、事業所内で利用者に関わりを持つ機会を作ることで、認知症の人の理解や支援の方法を啓発している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービス内容を報告したり、評価結果や改善への取り組みを話し合い、意見を聞きサービスの向上に活かしている。	参加メンバーからの意見や質問は活発であり、双方向的な会議となっている。評価結果についても詳しく報告し、参加メンバーの率直な意見を聞きサービスの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>介護保険課、地域包括支援センター等に、日頃から何でも相談できる関係が出来ているため、疑問なことや困った事が有ればその都度相談しサービスの向上に努めている。</p>	<p>管理者は併設する小規模多機能施設と兼務しており、在宅サービスの活用や、入院中の生活面等の支援について介護保険課や関係機関と気軽に相談し、アドバイスを受けている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないことを原則とし、理念や方針を掲げ、職員は研修会に出席して学んだことを、ホーム内勉強会の議題として全職員に周知し理解している。</p>	<p>事業所独自の身体拘束をしないケアのマニュアルを作り「利用者の体も心も生き生きとして暮らせる」ことがケアの基本であることを全職員で認識するため、課題を決めて勉強会を行っている。また、言葉による拘束について勉強会を予定している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会に参加し、ホーム内勉強会の議題として職員全員が意識を深めて防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に参加して学び、玄関には成年後見制度についてのパンフレットを配置して、必要な人には活用出来るようにしている。現在は活用している方はいない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項を説明して、疑問点や不安な点を尋ね、十分に理解できていない部分はその都度納得出来るように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、利用者・家族等が気軽に意見や要望を言ってもらえるように声掛けし、家族会との懇談会等の機会には意見箱や第三者委員について説明している。	家族の来訪時には気軽に話ができるように雰囲気づくりに努めている。意見箱も玄関の外に置き、いつでも自由に投書できるように配慮している。相談窓口や相談委員についても折にふれ説明している。	家族は身内が世話になっていることから意見等を言い出し難いことを理解し、家族会の際に、家族同士で話し合う機会を設け、意見等の結果を気軽に報告してもらうなど、更なる工夫を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会で出た意見を管理者会で話し合い代表者に伝えている。	毎月の職員会で運営に対する職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員はケア面の様々な委員会に属し、気づきや意見等を出し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や改善等の意見があれば管理者に伝え、管理者会にて代表者に伝え代表者は前向きに整備に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修に参加出来るように計画している、研修で学んだことを他の職員に報告し、共に学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	他の事業所とは年2回の勉強会を実施し、同系列事業所間は2カ月に1回の連絡会を実施するなど、管理者は各ホームの困難事例や特徴など意見交換し、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	利用開始前に、自宅やホームでご本人に面談し、不安な事や困っていること等をゆっくり聞き安心してもらえるように努めている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	ご家族にホームの生活の様子を説明し、不安なこと、要望等をゆっくり聞き、本人と共にホームを見学してもらい、信頼関係を築くよう努めている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	本人、家族の意向や状況を十分に聞き、必要に応じて他のサービスも紹介している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を把握し、普段の会話の中で本人の得意な事、自慢な事を会話に取り入れ学んだり一緒に手作業を行ったりしながら関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にして、家族が気軽に希望や要望を言える関係をつくり、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行き馴染んだ美容室・理容所を利用し、馴染みの人達との会話も出来ている。また、地元ドライブに出かけ、馴染みの場所に行く支援をしている。	馴染みの美容室を利用し、知人、友人や昔馴染みの人達と交流できるよう配慮している。また、利用者の希望に応じて馴染みの場所やスーパー等へドライブに出かけるなど、これまでの人間関係や馴染みの場所を把握し、関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が出来て話題が盛り上がることもあり、孤立する事がないように職員が中に入り関わりを深め支えあえるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後も、訪問したり家族に状態を聞いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で職員が一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。困難な場合は毎日の状態や援助の中で検討している。	一人ひとりの生活歴と日々の話しの中で希望や意向を把握することに努め、意思疎通の困難な利用者には家族に情報をもらったり、事前に把握している好みや楽しみ事を念頭に声かけするなど工夫しながら援助内容を話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から話を伺い、入居後も日常の会話の中でより詳しい情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の過ごし方を把握して、その人の状態に応じた過ごし方や、その人の有する力等に応じた手伝いをお願いしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には近状報告して希望を伺い、本人にはしてほしい事はないか希望を伺い、毎月モニタリングやカンファレンスの中で職員からの気付きや意見を介護計画に反映している。	本人、家族の希望を聞き、職員の気づきなども踏まえ、介護計画を作成している。状況が変化した場合利用者には即日カンファレンスを行い、家族の意見を聞いたうえで計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の生活状況を個々の記録に記入し、その情報を職員全員で共有するため、カンファレンスやモニタリングを通して話し合い、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>日常の生活面、医療機関への援助、食事面での本人、家族の希望や状況に応じて柔軟に支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の小学生との交流や地域住民参加の非難訓練、地区の清掃作業等へ参加することで、暮らしを豊かに出来るように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望のかかりつけ医に受診されている。緊急の場合はかかりつけ医に限らないことを説明して、納得と理解を得ている。大半の利用者はクリニックの往診を受けている。</p>	<p>月2回、協力医の往診を受けている。受診や通院は本人、家族の希望に応じている。家族が通院介助している場合は、受診結果を家族から聴取し、引継ぎノートや個人記録等により職員間で情報を共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護による健康管理の指導や24時間連絡のとれる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には再三面会に行き、家族や病院看護師との情報交換を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時に本人や家族と話し合いホームでの終末期を希望される方もおり、ホームで出来ることを説明している。かかりつけ医・訪問看護師とも相談して体制ができています。	看取り指針に沿って同意書をもらい、状態に応じ段階的に家族との話し合いを行っている。過去に1名の看取り事例があり、利用者、家族の意向に応じて、医療関係者と連携し対応できる体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し急変時の対策に備えて嘔吐物の処理、転倒時の対応、吸引器の使用等を学んでいるが、今後も実践力をつけていく必要がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回（内1回は消防署員参加のもと）火災や災害時の避難訓練を行っている。地域の区長や民生委員にも訓練には参加してもらい、災害時についての協力もお願いしている。	運営推進会議で地域住民の参加協力について話し合い、地区長や民生委員の参加を得て避難訓練を行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所独自の言葉使いの心がけを作り、職員がその気持ちを忘れないようにしている。その上で、一人ひとりが歩んできた人生を尊重し、その人それぞれに応じて言葉かけを行っている。	プライバシーについての勉強会や事業所独自の言葉使い研修等、必要に応じて勉強会を行い職員の意識を高め、利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の中で、本人の思いや希望を表しやすいように、職員の方から声掛けし希望を引きだせるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その日の状態や希望に沿って過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後や入浴後は整髪し、洗顔後は化粧を行う方やその日の服を自分で選んで着る方、また、行きつけの美容室へ行ったり、理容師がホームへ来て散髪している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で一人ひとりの好みの食べ物を把握して、会話の中に出た昔食べた懐かしい食べ物などを献立に入れている。利用者と一緒に下ごしらえをしたり、後片付けをしている。	利用者は能力に応じて、食事の準備から後片付けまで職員と一緒にしている。1週間のメニューは作成しているが、利用者の嗜好や希望に応じて変更するなど柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分な水分摂取が出来るよう、飲み物に飽きのこないよう工夫し多くの食材を使用している。また、水状が嫌な方にはゼリーにして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にてその人の力に応じて、見守り・一部介助・全介助等で行っている。毎週土曜日には義歯洗浄剤にて洗っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄の間隔を把握し、時間をみて声掛けし、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握して、誘導し自立できたケースがある。紙オムツから布パンツへ変えると不穏になるケースもあり、利用者の状況をみながら、介護計画を見直し、時間をかけて排泄の自立に向けて支援するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による不穏・食欲低下等を理解し、十分な水分摂取・食物繊維に多い物や乳製品の提供に心掛けている。また、毎日のラジオ体操や屋内歩行等の運動に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴の曜日や時間の設定はなく、一人ひとりの時間を十分にとり声掛けしながら個々のペースで入浴している。また、個々の力に応じて出来るところは自分で洗ってもらう等の支援をしている。</p>	<p>利用者の希望に沿って入浴できるよう支援している。入浴を拒む方でも声かけの工夫で2日に1回は入浴できている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの状態やその時々状況に応じて、和室で臥床されたりソファで横になったりして、職員の見守りの中で自由に過ごされている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりのケースに薬の説明書きをファイルし、追加や変更があった場合は日誌の引継欄、介護経過記録に記入し引き継ぎを行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日々の生活の中で自然と役割ができており、女性入居者は台拭き、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ等をしている。男性入所者は若い頃の話や現役の頃の仕事の話をしている。また、歌番組のDVDを観て職員と共に踊ったりして気分転換をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候に応じて、戸外への散歩を取り入れたり、日々の会話の中で行きたい場所や希望を聞き、月に1回程度の車で外出の際に、希望を取り入れるようにしている。また、馴染みの美容院や病院などにも本人の希望に応じて行っている。</p>	<p>日常的な散歩や外出は行っていない。その日の天候や体調、本人の希望を把握し、馴染みの場所へドライブに行ったり、喫茶店に行ったりしている。車椅子の利用者も同様に支援している。</p>	<p>外出は気分転換やストレス発散、五感刺激を得ることが出来るので、短時間でも戸外の空気に触れる機会を作るなど、外出支援の在り方を検討することを期待したい。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族と話して本人が希望すれば自分で財布を持っている。一緒に買物に行った時には、力量に応じて支払いの支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の要望があればその都度支援している。手紙の要望はないが あれば応じて支援して行く。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアは朝日が十分に入り明るくゆったりと過ごす事が出来る。フロアから見える風景は田園が広がり四季を通じて田んぼや山の色の変化があり季節を感じることができる。季節に応じてフロアや玄関の装飾を工夫している。台所は対面式で調理をしながら利用者の顔や表情を伺う事が出来る。</p>	<p>広いフロアの畳コーナーは家庭的な障子を入れ、雛人形が飾られている。共用空間には、長イスやソファを使いやすく配置し、利用者は横になってテレビを見たり、一人ひとり好きな場所で日光浴をするなど、ゆったり過ごせる環境に配慮している。また、玄関にはカーネーションやマーガレット、色とりどりのパンジーの鉢植が掛けられ季節感に配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	廊下にはベンチ、フロアには和室やソファがあり、横になったりテレビを観たり思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	本人、家族と相談して自宅で使い慣れた親しみある物を持ってきてもらい、レクで作ったカレンダーや写真、季節に応じた装飾品を飾っている。	使い慣れた寝具や小物入れを持ち込み、家族の写真や位牌を置くなど、個性のある居室づくりに配慮している。職員のアイデアで模造の紅梅の花を壁に飾るなど季節感の工夫もしている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	廊下・トイレ・脱衣場等には手すりをつけ、下駄箱の前と横にベンチを置くなど、できるだけ自分で履きかけが出来るようにしている。また、トイレには解りやすい表示をするなど工夫をしている。		

V アウトカム項目			
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない